

第3回小金井市緑の基本計画策定委員会 会議録

日時：令和2年8月3日（月）14：00～16：00

場所：小金井市役所第二庁舎8階801会議室

1 議事日程

- 1 開会
- 2 第2回緑の策定委員会会議録について
- 3 市民ワークショップの報告について
- 4 推進施策について

2 配布資料

- 資料1-1 第2回小金井市緑の基本計画策定委員会 会議録
資料1-2 第2回緑の基本計画策定委員会意見対応
資料2 市民ワークショップ結果速報
資料3 第3章 計画の将来像と目標 修正版
第4章 推進施策
参考資料1 みどりの分類と主な機能の整理
参考資料2 個別施策詳細資料

3 出席者

(1) 委員

		氏名	選出区分
1	委員長	福嶋 司	学識経験者
2	副委員長	椿 真智子	学識経験者
3	委員	小木曾 裕	学識経験者
4	委員	大澤 利之	農業従事者
5	委員	益田 智史	商業従事者
6	委員	串田 光弘	緑化団体
7	委員	笠原 謙次	緑化団体
8	委員	福嶋 隆	公募市民
9	委員	尾路 紀恵	公募市民
10	委員	鳥羽 浩子	公募市民

※ 欠席者なし

(2) 事務局

環境政策課長 平野 純也
環境政策課緑と公園係長 小林 勢
環境政策課主査 中込 甲斐
環境政策課緑と公園係主事 須田 裕士

4 議事要旨 (⇒は応答・関連意見)

(1) 第2回緑の基本計画策定委員会会議録について

資料1-1、資料1-2、参考資料1について事務局(委託事業者プレック研究所)より説明し、以下の意見があった。

- 福嶋委員：意見・提案シートについて、緑視率について指摘があるが、国土交通省によると、人は緑視率が25%以上あると安心感が得られるという報告もある。本計画においても指標のひとつとすることも検討されたい。

⇒福嶋委員長：緑被率、緑視率など様々な指標があるため、数値が示す内容の意義を踏まえて今後検討をしていきたい。

(2) 市民ワークショップ結果速報について

資料2について事務局(委託事業者プレック研究所)より説明し、以下の意見があった。

- 福嶋委員長：市民ワークショップでは、かなり具体的な意見が出ていると感じる。本委員会でも、より具体的な議論をしていかなければならない。また、市の体制について、職員が数年で異動してしまい、専門的知識をもった職員が育たない。専任の部署や職員を設ける等の体制の改善も考えられると良い。

(3) 推進施策について

- 笠原委員：p.6「都市公園等や学校等の公民館」は誤記ではないか。学校は公民館には含まれない。

⇒事務局：指摘のとおりである。修正する。

- 福嶋委員長：「市民、事業者、大学及び東京都等の多様な主体が市と連携して」は「市が市民、事業者、…」と、市を主体に書いてはどうか。

⇒事務局：指摘のとおりである。修正する。

- 椿副委員長：p.4の模式図のみどりの軸の具体例に「国分寺崖線」を加えてはどうか。p.5の「交流にぎわい軸」について、道路や鉄道が交流にぎわいの場となるか、表現に違和感がある。また、p.5の歴史と自然軸「玉川上水・この周辺」は「玉川上水とその周辺」、p.6の「気象緩和」は「現象緩和」で良いのではないか。p.9の「みどりの創出」は、詳しい内容を見ると、新たに創り出すというよりも、今あるみどりを有効に活用する意味合いが強いように感じる。「みどりの創出・活用」としてはどうか。

⇒事務局：指摘踏まえ、適宜見直しを図る。

- 笠原委員：p.9に「市民協働の拡大」とあるが、一般の人は「協働」という言葉に馴染みがないのではないか。わかりやすい言葉とする必要がある。

⇒福嶋委員長：誰でもわかりやすいよう、補足説明を入れるか、具体例を示す必要がある。

- 福嶋委員長：p.3のキャッチフレーズについてはどうか。アイデアがあれば意見をいただきたい。

⇒笠原委員：「みんなでつくりつなげるみどりの小金井」というキャッチフレーズを考えた。「みんなで」には、市、都、市民、ボランティア、学校及び町内会等を含んでい

る。「つくり」は、新しく作ること、手入れすること等を意味する。「つなげる」は、みんなでつなげる、次の世代につなげる、生物の移動をつなげる、活用につなげるという意味を含む。

⇒福嶋委員：私は素案をもとに考えた。「つむぐ」という表現は一次元的なニュアンスを感じるので、「織りなす」の方が縦横の二次元的なイメージがあり、良いと思った。ただし、グリーンリビングは馴染まないと感じた。「みどりと人が織りなす笑顔のこがねい」はどうか。

⇒福嶋委員長：「みんなで育て活かすみどりの小金井」を考えてみた。

⇒椿副委員長：私は「みどりと人が共生するまち小金井」を考えた。つくる、守る、活かす、全てを含む意味で「共生する」という言葉を使ってみた。

⇒益田委員：そもそも、このキャッチフレーズはどこで使うことを想定したものか。

⇒事務局：基本は本計画に掲載するものだが、本計画の子ども版を作って学校に配布することなども検討している。

⇒益田委員：子ども達につたえるという使い方をするのは非常によい。

⇒福嶋委員：キャッチフレーズが決まったら、それをテーマに子どもたちにポスターを描いてもらってはどうか。

⇒笠原委員：市内のマンホールは小金井市のキャッチフレーズである「水とみどりのまち小金井」をテーマとしたデザインが施されている。

⇒串田委員：市全体のキャッチフレーズは「水とみどりのまち小金井」となっている。他の計画を見ても、様々なキャッチフレーズが設定されているが、言葉は異なるものの、趣旨は似たものが多い。普及啓発を図る段階で互いの関係がわかりにくくなってしまっているのではないかと考える。キャッチフレーズを統一することも考える。

⇒福嶋委員長：市の考えもあると思われる。今後も引き続き検討することとする。

⇒小木曾委員：子ども版を作るのは賛成である。大人でも中々見ないものを子どもに知ってもらうことは大切である。小さいポスターでも良いのでぜひやってほしい。例えばJR駅に掲示する等するだけでも効果が期待できるのではないかと考える。

⇒椿副委員長：小学校3年生では地域学習をする。その時に活用できる情報が本計画にあれば、教材として使ってもらえると思う。

⇒鳥羽委員：過日放送された小金井市を扱ったテレビ番組では、みどりと水が豊かな町として紹介されており、小金井にとってみどりは重要なPRポイントであるということを確認した。子どもたちにポスターを描いてもらうという話に関連して、すでに食育の取組の一環として、イラスト募集等を行っている。みどりに関しても募集することも検討すると良い。

○福嶋委員長：新規事業が多数記載されているが、全て出来るのだろうか。精査が必要ではないか。

⇒串田委員：具体的な施策の話題となり、これまで以上に興味を持って説明を聞いたが、まだ文言が先行している感触を受ける。ボランティアについては、活動の動機や活動内容も人それぞれである。ボランティアを支える仕組みを具体的に考えれば考えるほど、個々の事情を考慮する必要があると考える。この施策に実効性があるかはわからない。また生け垣については、助成制度の活用意向が少ないということであるが、その原因は

分析されているのか。生け垣が減ったのは、管理上の問題もあれば、相続により昔ほど敷地を確保できないなど、個々の事情があったと想像されるが、生け垣がうまくいかないからと言って、プランターの助成制度を導入してうまくいくのかどうかは、やや疑問である。

⇒福嶋委員長：市として、プランターを推進してどのようにしたいのか方向性を示すことが重要である。

○福嶋委員：「みどりを豊かにするための取組」として記載されているアンケート結果について、n=1,028 あるが、これは集合住宅と一戸建てどちらも含まれているのか。

⇒事務局：アンケートは無作為抽出により実施しており、これにはどちらも含まれている。ただし、昨年度、住居形態別の分析は行っており、戸建て住宅のみで見ても半数近くは「取り組んだことはないし、今後も取り組んでみたいと思わない」と回答している。

○小木曾委員：アンケート結果については、生け垣造成は、敷地的な余裕がある家庭が少ないため、否定的な回答が多い可能性がある点に留意が必要である。そのような状況のなかで、どのように生け垣を増やしていくかは検討のポイントとなる。また、開発行為における樹木の保全は実現できれば実効性は高いと思われる。

⇒椿副委員長：生け垣造成は、住環境を踏まえるとやりたくてもできないという部分がある。また、現計画の評価の中で、最も達成できなかったのが生け垣であり、現行制度を推進しても結果は改善されないことが想定される。アンケート結果を見ると、住環境の影響を受けるものは取り組み意向が低いが、市民農園への参加等、ソフト面で対応できるものは、取り組み意向が高い。そういう意味で基本方針3の取組が重要だろう。先日のワークショップでも意見が出ていたが、個々の知識や成果を共有して、ボランティア同士をつなぐプラットフォームがあると良い。環境市民会議にはそのような役割を期待できないか。ボランティア同士をつなぐ仕組みづくりに相当する施策があると良い。

○福嶋委員長：資料3p.12に「玉川上水沿道景観を守る」とあるが、狭義の景観となってしまうと、ただ緑があれば良い、となるので、何をどのように守るのか書きぶりは注意が必要である。また、学生ボランティアの募集とあるが、学生に絞っている意図はなにか。また実際に学生に働きかけていく思いがあるのか。市民協働に係る施策全般に、市が働きかけをする意気込みや覚悟があるか確認したい。

⇒事務局：現在、花壇ボランティアについては、年2回会合を開催して、他市への視察等を行っている。花壇ボランティア以外の連携についてはまだできていないため、これまで以上に取組んでいきたいと考えている。学生ボランティアについては、野川クリーン作戦の取組を応用したいと考えている。野川クリーン作戦では、小中学生を対象にボランティアポイントを設けているが、これが子どもたちの参加意欲の向上につながっているようである。同様の仕組みを他のボランティアにも活用し、学生をボランティア活動に巻き込めればと考えている。

○福嶋委員長：街路樹について、具体施策として記載がないように思う。他市では、街路樹が多すぎるため、樹種転換や間伐等について緑の基本計画で具体的に言及している例もある。幅員に応じた植栽が重要であり、いたずらにみどりを増やせばよいわけではな

いということをよく認識していただきたい。

⇒事務局：街路樹については基本方針2にて記載している。スペースが十分に確保できない箇所はつる性の植物などを活用するなど、可能な範囲での緑化を推進している。

⇒福嶋委員長：確かにやみくもに樹木を植栽すれば良いというわけではない。引き続き検討をお願いしたい。

- 福嶋委員：現状は道路幅員に対して街路樹が大きすぎるのではないか。根上がりによりけがをした人もいる。何のために街路樹を植えるのか、目的にあった植栽が必要である。またアンケートでは都道に関する自由記述がある。個人的には道路建設自体は賛成でも反対でもないが、広域的な防災の観点から見れば必要かもしれないが、近隣住民には必要ない道路である。みどりの保全の観点からすれば、トンネルとする方法も考える。
- 椿副委員長：基本方針3に係る部分で、現在ボランティアに参加していない人でも、潜在的に興味を持っている人はいると思う。こうした人たちにどう参加してもらうのかが大事である。みどりというと、自然的な観点が強くなりがちであるが、屋敷林や玉川上水等は人文資源として捉えることもできる。地域の歴史など幅広にとらえたほうが、参加者層の幅が広がって良い。
- 尾路委員：盛りだくさんに書いてあるが、市民として何をしたらよいかのわかりづらい。例えば、札幌の大通公園でやっているように、市の公園に花壇を設けて、数か月間市民や事業者が管理してもらってコンテストをするような、市民から自発的にみどりを増やすような仕組みがあると良い。
- 笠原委員：p. 11の基本施策と具体施策の間に、誰が取り組むのかを明記することはできないか。
⇒事務局：実施主体については今後整理し、第4回委員会以降で諮る予定である。
- 益田委員：p. 15に商店街への緑化支援とあるが、商店会に緑化支援をしてもらっても、実際にはみどりを置く場所があまりない。生け垣と同様、絵にかいた餅になりかねない。商店街に限らず、事業者への支援くらいにしておいた方が良いのではないか。
⇒事務局：個人的な発言だが、今回掲載している施策は、市が実施することをすべて掲載しているが、この分量を示しても市民が読んでくれるとは思えない。市民が手に取ってわかりやすいものにしたいというのは同じ思いである。通常、行政が作成する計画というと、現状分析、方針、施策、といった流れで整理するが、市として何を実施すべきか、重点は何なのかをわかりやすく示した計画としたい。
- 串田委員：個人レベルに話が下りてくると対処が難しいと話をしたが、面積で言うと住宅地が多数を占める。かつての小金井は庭があり、生け垣があり、という風景が広がっていた。それが変化していくことは、それなりの理由があり、嘆くことではないと思う。個人宅の緑化や生け垣は、助成金があるからやるものなのか。計画として市がやることを示そうとするとどうしても助成金の支給といった話になりがちだが、市が働きかけをせずとも、家の周りの清掃や園芸をする人はたくさんいるので、助成金よりも緑化や生け垣を増やした先にどんな街並みにしたいのか、目標像を示すことが重要である。コラムでも良いので数値とは別の市としての思い等を記載してほしい。
- 大澤委員：緑化活動の表彰制度というのがあるが、これに生け垣を追加してもらえたら良いのではないか。

- 小木曾委員：緑化施設に限らずソフト面も含めて、市にこんなに良いものがあるんだという表彰していったら良いと思う。ワークショップの結果にもあるように、「安全性や快適さの確保が求められ、どんなみどりも手入れが重要」というのは同意できる。また、緑化基準の引き上げにも賛成する。
- 福嶋委員長：保存樹木も保全するだけでなく、管理費を半額出すなどしている自治体もある。保存樹木を指定して終わりではなく、樹木医の診断を得るなど、フォローしていく必要がある。
- 笠原委員：かつて近所に生け垣の見本がある公園があり、それを参考に自身の家にもピラカンサの生け垣を作ったが、維持管理に手がかかっている。やはり、市民に庭木に適切な樹種をアドバイスできると良い。
- 福嶋委員長：玉川上水は生物多様性保全の観点から管理の見直しが必要である。外来種の移入には注意が必要である。

以上